

第5期中期経営計画・2017年度事業計画

2017年度は、東北労働金庫第5期中期経営計画（2015年度～2017年度）の最終年度として、「3つの主要テーマ（運動性・収益性・事業性）」と「3つの改善（営業推進・財務基盤・事務効率）」の着実な実践により「会員と共に創る新たなステージ」を確立し、「預貸和3兆円超金融機関」をめざす重要な年度となります。

また、第5期中期経営計画に掲げている「3つの主要テーマ」と「3つの改善」に基づき、当金庫の最重要課題である「経営改善策」を確実に実施し、盤石な経営基盤の確立に向けた取り組みを進めてまいります。

2017年度は、混迷する社会、勤労者の生活基盤を巡る環境変化、激動する金融情勢等がより一層想定されます。東北労働金庫が将来に亘って「会員・利用者の皆様の負託に応える」ために、「持続可能なビジネスモデル」構築に向けて各種課題の整理および対応策を進めてまいります。

東日本大震災から6年が経過し様々な取り組みが継続して行われておりますが、復旧・復興への道標は未だ十分に描き切れていない状況にあります。被災地にある金融機関として、被災された方々の生活基盤確立に向けた取り組みを継続し、引き続き社会的役割を發揮してまいります。

（第5期中期経営計画のめざす方向性）

2017年度事業計画

スローガン

運動性・収益性・事業性の調和・均衡ある発展により、
会員と共に創る新たなステージへ

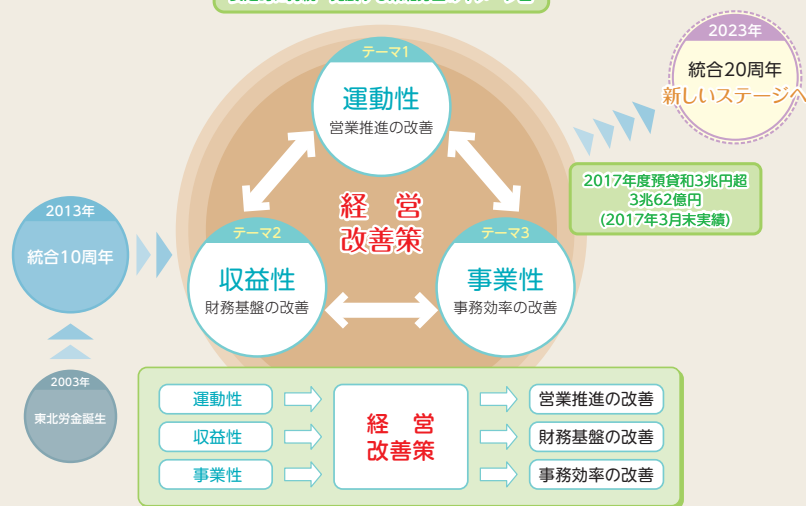
主要テーマ

1. 「運動性」… 会員・利用者との協働による共生社会の実現をめざします
2. 「収益性」… 安定した収益確保に向けて財務基盤の整備を図り、盤石な経営基盤を確立します
3. 「事業性」… 魅力ある商品・サービスの提供や事務品質管理を徹底し信頼されるろうきんをめざします

サブ・テーマ

震災からの復興、被災者への支援を継続して取り組みます

安定的に持続・発展する東北労金のイメージ図



主要計数目標

(単位：百万円、%)

項目	2017年度
預金年間増加額	55,000
貸出金年間増加額	25,000
預貸率（平残）	58.41
当期純利益	2,809
ROA（総資産税引前利益率）	0.18
OHR（業務粗利益経費率）	79.83
自己資本比率	10.01
経費率	0.87

※ ROA：経営資源である総資産をどの程度効率的に活用し利益に結び付けているのかを表し、ROAが高いほど収益性が高く効率的であることを示します。

※ OHR：業務粗利益に対する経費の割合を表し、OHRが低いほど効率的であることを示します。

2017年度事業計画

テーマ	重点課題
「運動性」	①推進機構・会員との協働 ②営業改革 ③総合政策策定と経営基盤の確立 ④「生活応援運動」の継続 ⑤地域との共生 ⑥自治体提携融資制度の統一と推進
「収益性」	①預金・貸出金年間純増額達成 ②収益力拡大、コスト改革 ③「財務基盤改革」による資金運用力強化 ④「人材改革」による人材育成と組織活性化 ⑤組織機構改革、子会社との連携
「事業性」	①ニーズに合った商品・サービスの提供 ②「事務改革」によるお客様満足度の向上 ③コーポレートガバナンス、コンプライアンスの徹底 ④リスク管理の徹底、監査・相互牽制機能の強化
「震災からの復興、被災者への支援継続」	①営業基盤の整備 ②被災者支援の継続 ③震災関連融資等への適切な対応 ④災害時の業務継続態勢整備 ⑤会員・労働福祉事業団体等との連携強化